

東京都知事選 候補への公開質問

IV教育

問1 平成26年12月に舛添要一前知事が策定した「東京都長期ビジョン」では、概ね10年後までの目標として、「グローバル人材の育成： 高校卒業段階で英検準2級程度など」「基礎基本を徹底して学力向上： 全国学力・学習状況調査での下位層を全教科30%未満まで減少」「体力向上： ピーク時である昭和50年代の水準まで向上」「社会的・職業的自立： 都立高校生の80%以上が将来の目標」を掲げています。これについてどう考えますか。適切なものに○をおつけください。

1. 基本的な方針は踏襲する。
2. 方針転換（軌道修正ないし抜本的な取組追加）の必要がある。

〔具体的に軌道修正・追加すべき点、理由、補足などあれば、自由に記載してください。〕

問2 地方自治体の教育行政に関しては、首長と教育委員会の関係について議論があり、教育再生実行会議や中央教育審議会での議論を経て、平成26年、首長の役割を高める方向で法改正が行われました。これを前提に（現行制度の枠内で行政執行を進めることは当然として）、教育行政における知事の役割についてどう考えますか。最も適切なものに○をおつけください。

1. 知事としてリーダーシップを発揮すべきだ。
2. 教育行政の分野では、基本的には教育委員会の役割を尊重すべきだ。
3. その他

[

]

問3 他の自治体では、私立高校の授業料支援（国制度への上乗せ）、幼児教育の無償化などを進めているところがあります。これに関してどう考えますか。最も適切なものに○をおつけください。

1. 東京都でも、教育無償化に向けた検討を進めるべきだ。
2. 当面は国での検討を待つべきだ。
3. その他

[

]

問4 東京都内では、中学生の約4分の1が私立中学校（中高一貫校など）に在学するなど、他の地域と比べて特異な状況がみられます。こうした状況をどう考えるか、また、都内の公立学校・私立学校それぞれの課題をどう認識されているかなど、お考えがあれば自由にご記載ください。

[

